

町内では70種近いシダの仲間が記録されています。その中でも大きくて美しいシダの1つがリョウメンシダ（両面羊歯）です。他のシダと異なり、表も裏もよく似ているので、この名があります。スギ林の下や縁^{ふち}で見る事が多く、薄緑色のすがすがしい葉は1年中目立ちます。

シダは花も実もなく^{ほうし}胞子で増えますが、本種は秋から冬にかけて胞子が熟します。葉を裏返すと、ソーラス（＝胞子囊群^{のうぐん}＝胞子が詰まった胞子囊が集まったもの）が点々とあり、それらは虫めがねで観察すると、円腎形をした包膜^{えんじんけい}で覆^{ほうまく}われています。やがて包膜の縁^{ただよ}がめくれ、胞子は空気中に漂っています。

おい自然園園長 一寸木肇



群生するリョウメンシダ



葉の裏にソーラス（白い部分）が並ぶ



◀おい自然園HP
大井町の動植物や虫、石、自然観察会の結果などを掲載しています。



◀自然NOWへの投稿
町内の身近な自然情報をお待ちしています。
※撮影は横位置で